

## 特集「東日本大震災から10年」 ～復興、そして未来の街づくりへ

(株)八木澤商店 代表取締役  
ロツツ(株) 代表取締役  
(株)醸 代表取締役

河野 通洋 氏  
富山 泰庸 氏  
田村 満 氏

発酵食堂やぎさわ  
カカオブローマ  
ベーカリー マーロ



# 特集 「東日本大震災から10年」

## 復興、そして未来の街づくりへ

### 陸前高田 発酵パークCAMOCYオープンへの軌跡

2020年12月17日、陸前高田の今泉に震災から10年を経て、夢に描いた発酵パークCAMOCY(カモシー)がオープンしました。発酵をテーマに8社が共同で立ち上げた施設で、この地で200余年営んできた醤油味噌醸造業の八木澤商店が震災前にあった場所に建てられました。

格的なパン店、オーガニックチョコレート製造販売、クラフトビール醸造、テイクアウト可能な惣菜店などが並び、洗練された商品が揃います。さながら「デパ地下」を想起させるようなクオリティの高さに驚かされます。

振り返ると様々な思いが蘇ってきます。気仙支部は当時、毎月の例会には50名ほどの参加があり、毎回様々なゲストが訪れ、笑いが絶えないほどの盛り上がりがありました。100名会員達成はまもなく、というところでした。

そのなかで起きた3月11日。すべてが失われ、色彩のなくなったこの地で、「一社もつぶさない。決してあきらめない」と掲げた日。それからここまでの10年は企業存続のため、「雇用を守るため、地域を守るために言葉では表現できないほどの壁に、必死で

向き合ってきました。そうしてこの地に、再び溢れる笑顔が戻ってきました。

カモシー、社長の田村満氏はオープン当日報道陣に囲まれ、話しました。「ここを拠点に皆に幸せになつてほしい。こういうやり方があるんだ。企業の枠を超えてこんなに仲良く一つのことをやれるてもらい、一緒に食べて語りあい、この場所から全国に幸せを拡げていきたい。」



全国各地で広がり、社会課題、地域課題は今後益々各地であふれ出てきます。カモシーは、そうした課題解決の糸口を解決に導くソーシャルビジネスの拠点です。「一社もつぶさない」を掲げ続けた想いを胸に、ここ陸前高田今泉に具現化した取り組みを、3人のリレートークで紹介します。

八木澤商店があった今泉地区は10年前の東日本大震災時、陸前高田のなかでも津波被害が激しく、町として機能を99%失ってしまった地域です。当時は600軒ほどの建物があり、約1700人ほどの人口がありました。そこが津波で99%がなくなつてしまったので、物理的にも陸前高田の中でも最もかさ上げや土木工事が遅れてしまい、回復が遅れた場所です。そのため、もともと住んでいた人たち



ふたたび、あの発酵の香りのするような街をつくりたい

(株)八木澤商店 代表取締役 河野 通洋 氏

発酵食堂やぎざわ(味噌醤油販売・発酵定食)

#### 土蔵が立ち並ぶ歴史的な地域

他の町に移転をってしまったり、高台に土地を求めてしまったりと、「かさ上げした場所に誰も戻つてこないんじゃないか」と言われていた場所です。

八木澤商店があった今泉地区は10年前の東日本大震災時、陸前高田のなかでも津波被害が激しく、町として機能を99%失ってしまった地域です。当時は600軒ほどの建物があり、約1700人ほどの人口がありました。そこが津波で99%がなくなつてしまったので、物理的にも陸前高田の中でも最もかさ上げや土木工事が遅れてしまい、回復が遅れた場所です。そのため、もともと住んでいた人たち

#### この地域に40社の企業を立ち上げる

津波で多くの会社がなく



なってしまうので、新しい仕事の場所を作ろうということ、大震災直後になつかしい未来創造という会社を立ち上げました。内閣府の予算を活用してソーシャルビジネスでこの地域に会社を40社立ち上げよう。年限を10年で解散させよう決めてスタートしました。そうして陸前高田では箱根山テラスやNPOも含めて、この10年で113社の新しい新規創業が生まれました。

社員を雇用していません。地域外からの雇用が半分ぐらいです。人口流出の歯止めを県外から来て創業した方や移住して働く方々が支えている状況です。その意味でも、高台で陸前高田ドライビングスクールが津波での被害がなく、田村満さんが無事で地域を牽引いただいたのが、今考えると本当に大きかったと思います。ドライビングスクールを拠点に、被災後すぐ避難所200カ所への支援物資搬送もできましたし、発災からたった1ヶ月後に朝市をオープンできたのも、そうした背景があったからです。

## 「なつかしい未来創造」の立ち上げ

私たちがここまでこれたのも、ソーシャルビジネスネットワークの町野氏、服部氏が東京から何度も繰り返し通い続けてくださって、「なつかしい未来創造」で事務局役をしてくださったことがとても大きいと思います。また今泉地域の住民協議会の事務局もやってくださって、この

10年で実に百数十回もの協議会を開いていただきました。また陸前高田市と繰り返し協議を重ねながらこの街にこういうものが必要だろうと、語りながらここまでできたと思っています。

「もう今泉はだめなんじゃないか」ともいわれました。我われの子ども頃は、この街で生まれ育って、常に発酵の香りがして、山から湧き水がこんこんと湧いていて、それを井戸水として日常使っているとというようなライフスタイル、生活でした。でも「あつて当然」のものがなくなると、初めてその価値に気付くものです。「また日常の生活の中で、ものづくりをする音や発酵の香りのするような街をつくりたいね」という話をしていました。

「発酵をベースにした街づくりをしたい」と、酔仙さんとか気仙沼の人たちも声をかけ、「一緒にやりませんか」とこの指とまれで声をかけ始めたのが3年ぐらい前だったと思います。

そんな時に私たちの想いを

聞いて、大都会から家族全員で移り住んできたのがワタミファームの小出氏でした。持続可能な社会と一緒に作りたいと、人生をかけてこの街に来てくれました。ワタミは大企業ですが、そうした人たちの熱い想いがあったから、このカモシの事業も生まれたと言っても過言ではありません。こうして重

ねる中でその仲間たちと一緒に商品開発をするとか共同でイベントやるとか、発酵の町にしようという取り組みができる環境ができたのがつて来ました。

## 多種多様な菌が繊細なハーモニーを生み出す

これまで発酵食品を作る時は、純粹培養が基本でした。例えば酵母にして

も乳酸菌にしても、限られた中で作っていくことが尊いとされてきました。本来は、人間が微生物をコントロールするところに面白さがあるわけではなく、「ごちゃ混ぜの美学」という言葉にあるように、多種多様な菌があつて、様々なハーモニーが生まれ、理由はわからないけれども「これ



いいんだよね」というものが大切になってくるのだと思います。

よそから来た人も若者も、ご高齢の方々も女性も、障がいのある人も、みんな時々喧嘩もしながら、社会の調和を保っていくということなのだと思えます。そんな社会がここから始まればいいと思ってカモシーを始めました。

店にはオーガニックの無添加の物しか置いていません。どこのデパートにも商品クオリティでは負けません。加えてその商品の全てが全部知り合いのものなんです。その何割かは障がいのある方々が作ったものです。そういうものが陸前高田、この地元で売れるのです。

でも驚いたのは、どの店も開店以来どんどん売り上げが伸びていることです。

コロナのおかげで県外からはまだ、なかなかおいでになりませんが、その分9割が地元、岩手ナンバーで溢れています。目ざしてきた、地元から愛されること。これが最も嬉しいところです。

## 気仙町の歴史を見てきた裏山の木をそのまま建物に

そして、カモシーをどういう建物のコンセプトにするかというときに、名前があがったのが箱根山テラスで設計環境してくれたビオフォルム環境デザイン室の山田貴宏氏でした。できることならば、長期的に見て環境のことを考えていく建物にしたいと、一緒に山に行きながら、丁寧に設計を立案していきました。

実はカモシーの建物には気仙町の裏山の間伐材を使用しています。八木澤商店の裏山の木をそのまま切ったものをふんだんに使用しています。気仙町の山の木は、震災前からこのまちを見てきた木です。そこで「先祖になる」という映画にもなった、私たちの農林業のお師匠さんでもある88歳の佐藤直志氏にお願いして、全部山から切り出してもらいました。そして村上製材所が製材、建てる

のは吉田建設、更に椅子などの家具は桜井家具と森の前鉄工という同友会のメンバーがすべて関わり、実現しました。これも一つの地域連携のモデルです。「こうすれば地域で誰もが仕事をつくることができる」という提起にもなつたと思います。

まさにこれこそが岩手発のエネルギーヴェンデであり、SDGsそのものです。これをきちんと仕事として売れるということ。これが重要だと思えます。このようにしてカモシーが立ち上がりました。



## 陸前高田から世界に通用するチヨコレイト文化を発信したい

ロッツ(株) 代表取締役 富山 泰庸 氏  
カカオプローマ(オーガニックチヨコレイト製造販売)



## 発酵食品とチヨコレイトの共存

最初は温浴施設まで作る予定でした。発酵風呂まで考えていました。薬局とリハビリテーションをやっている会社なので、高齢の方々が発酵を通して元気になっていくのも、実現可能かもしれないなと思っていたのですが、大きな構想になりすぎてたのと医師不足もあり、当初は断腸の思いで参加できない旨をお伝えしました。

お断りしている最中にソーシャルビジネスネットワークさんから、チヨコレイト事業

はどうですか?と説かれ、フェアトレードで先駆的な取り組みをしている(有)ネパリ・バザードさんと出会います。

オーガニックに対する思いがとてども厳格で、体にいいオーガニックチヨコレイトなら当社理念の「健康を広める」というコンセプトに合致すると思いい、事業開始を決意しました。同時に、チヨコレイト作りは多くの製造工程があり、仕事を切り取ることができないため、その人の能力にあった業務を提供し、この地域に無かった「最低賃金を払って障がい者を雇用する」取り組みにも着手できると確信したのを覚えています。

## 手間暇が何倍もかかるオーガニックチヨコレイト

そこでカカオ豆からチヨコレイトになるまで一貫して製造を行うオーガニックビーントウバーを陸前高田でしてい



なっています。全社員が賛成してやってくれているのはそういう背景があります。「チョコレートに関わることで健康に貢献できる。しかも障がい者雇用につながるという事であれば私がやります」と言ってくれた社員もいました。

## 世界で通用する 陸前高田発の職人技術

カカオブローマのチョコレートには、砂糖や化学物質は一切入れていません。貴重な昔ながらの釜炊き製法でつくった、沖縄北部の西平黒糖を使っているので、他の国では

この味は出ないのです。陸前高田でしか作れない味です。オーガニックカカオとオーガニック黒糖だけで作るチョコレートであれば、欧米でも通用すると思います。

甘い物は食べた後で酸化するのでお口の中が臭くなります。甘ったるくなります。皆さんもそれを紅茶で流したりすると思いますが、当社のものはむしろ酸化作用があり、殺菌作用が出ますから、食べたあと口の中がさっぱりとします。

更に面白い作用があります。作った直後のチョコレイトは酸味が強いのですが、2ヶ月ほどたったものは旨味が出てきます。同じ成分なのに味が変わるのをどう説明しようかと正直思っていました。添加物を入れてないので熟成が進んでいくんですね。

カカオマスの段階で2ヶ月寝かせ、板チョコになってからも2ヶ月、そこからまだまだ熟成していきます。オーガニックで農薬が付いてない状態のものをそのまま発酵させるので、もともとそこについ

ている微生物量が圧倒的に違います。有機酸発酵が進みやすく、複雑な有機酸発酵と酢酸も何種類か、あとは有機酸も何種類かの発酵が行われているので、いかにも漬物臭なんでしょうね。それが圧倒的な違いなんです。全く有効成分が違っています。

原料ベースで黒糖もオーガニック、カカオもオーガニック。pHも測定して、カカオの土壌成分、比率や酸味の度合いなどの数値化をしきちんと伝えられたら間違いなく世界に通用するものになると思います。

オーガニックチョコレイトを作るのはとても難しいです。午前と午後でも温度や湿度の変化が生じるので、違った出来上がりになってしまいます。作り手の繊細な感覚が重要になりますので、機械化が困難となります。

## 障がいがあるなしにかかわらず、やりがいを 実感できる会社に

カカオブローマは21世紀型の事業を推進していると自負



しています。単なる障がい者雇用ではなく、障がい者雇用をすることによって生産性を向上させようという取り組みです。

障がい者の方々には業務全体を一貫して行うことが困難な場合が多く、できる限り一つの作業に集中してもらえる環境を作ることが大切です。ですので業務フローをしっかりと分類する必要性が出てきます。また、指示もアバウトではなく、具体的に明確でなければなりません。

例えば、液状のチョコレイトに黒糖を混ぜる時、「ゆっくり混ぜてね」というのはアバウトな指示になります。「1分15秒おきに10グラムずつ入

れてください」というのが正しい指示になります。アバウトな指示では障がい者は仕事できません。正しい明確な指示を出せば、しっかりと業務を遂行してくれます。これはどの社員でも同じですよ。ここに気づけば会社全体の生産性が向上することも見えてくるはずです。

同時に障がい者の方々の生産性向上自体もしっかり取り組む必要があります。障がいのある方々は依存したメンタリティーを持っている方も多いため、最低賃金をもらうということがはそれ相応の生産性が無ければいけない事を、明確に数値化して提示する必要がありますが出てきます。障がい者を雇用するからこそ、会社全体の「生産性」という課題を直視できるようになり、会社全体の生産性を向上させる効果が出るかと私は見えています。21世紀は誰もが平等に社会参加するだけでなく、モザイクな社会参加の実現によって、全体の生産性が向上することが証明される時代だと感じています。



## 子どもたちが将来目ざす職業で あり続けたい

(株) 代表取締役 田村 満 氏

ベーカリーマール（焼きたてパン製造販売）



### 本格的なパン屋さんを 陸前高田に

発酵の里カモシーを立ち上げるにあたって、いろいろと調べていくと、チョコレートも味噌も醤油も、ビールもパンも全部発酵食品だということがわかりました。

そこで「本格的なパン屋さんがあったらいいね」ということになり、ベーカリーマールという店を立ち上げました。ソーシャルビジネスの関連で調べてみると全国には1店舗で年間4億円売り上げがあるパン店があることがわかりました。そこで現在のベーカ

てきたことがほとんど採用されることはありませんでした。このままいくと地域が駄目になってしまうことは分かってるわけです。そこで、

自分たちでやれることをやっていこうとなった。このカモシーの試みは、今泉という町があつて、八木澤商店があつて、そこにみんなが寄り添って一緒にソーシャルビジネスを考えてるわけです。こうした思い、まさにマインドこそが街を元気にしていくのだと思います。「こうして、カモシー社長も引き受けることになりました。」

### 一番嬉しいのは 子どもたちに未来を 体験させられること

田村氏、河野氏、富山氏は、あれだけの被害があつた街を見つめながら、発災直後から千先の未来を提起し、様々なセクターに働きかけて来ました。しかしながらこの10年、なかなか伝わらない、変化しない状況を常に感じてきました。「我われは常に、復興を考えていました。でも復旧を考



えてきた人たちにとっては、それは全くのボタンの掛け違いになってしまつていたのであります。私たちの声が響かなかつたのは当然です。復旧を考えたわけだから。でもこのままいくと陸前高田は復旧したけれども駄目になっていく。そう感じたので声を出し続けてきたんです。

我われはこの街から逃げるわけにいかないし、人口が1万人の町よりは2万人、3万人いたほうが商売がしやすいわけ

て一番嬉しいのは、この今泉の子どもたちがパンを焼く匂いにつられて、パン生地をこねている脇にのぞきに来る。子どもたちが「すごいいいな」って見ているうちに、パン屋さんになつてもいいかなと思うかもしれない。チョコレート工場が練っているのを見て、「チョコレートもいいかな」と思う子どもたちが出てくるかもしれない。職人を目ざす子も出てくるかもしれない。日常の生活の中にそういうものを生み出せる場所ができたこと。」

マーケットを考えると普通のビジネスマインドでは、間違いなく尻込みされるこの陸前高田、今泉での大きな挑戦。決してあきらめない気仙の皆さんの震災10年目の新たなスタートです。

いるなら別ですが、ここで商売しているのだから、ここにお客さんがいないと困る。私たちはそういう気持ちです。

カモシーができ



# 支部・委員会・部会・ほつとライン

## 紫波花巻支部2月例会

紫波花巻支部例会が2月4日(木)オンラインで開催されました。信幸プロテック(株)取締役会長の村松幸雄氏より「みんなで考えてみよう!中小企業振興基本条例」〜条例はどうして必要なのか?そもそも条例ができると何が変わるの?〜をテーマに報告いただきました。



矢中町での振興条例の取り組みは、2019年11月に第18回経営研究会in紫波で、来賓としてご出席いただいた、高橋町長の「ぜひ振興条例制定に向けて同友会の皆さんのお力をおかりしたい」という言葉から始まりました。昨年7月、9月の2日間、矢中町の未来の町を新たな発想から考えるデザイン思考のワークショップを開催し、町の課題を解決するためのアイデアが出されました。そこで初めて役員職員、経済団体、地元企業、町民が繋がり、まちな1歩になりました。

### 条例は町の経営指針と同じ

条例は町の経営指針と同じだと考えます。そもそも条例の目的は、大企業、中小企業と行政や議会の役割と責任を明確に示し、町を支える経済の主役の中小企業の振興と持続的発展のため、中小企業に対する諸政策の基本的考え方を示していく事です。行政の担当者、議員、町長が変わっても理念は変わらない。次世代に繋ぐ若い人たちは、未来を語り、なくてはならない大切な事を学びあいます。企業は持続可能で幸福になるために「自社経営が健全になること」「実践者の仲間を増やし、町の産業が活性化すること」「成果が町の特産物になり実践と研究を続けること」この3つを成し遂げることでないかと思えます。とご報告いただきました。

## 盛岡支部2月例会

### 中小企業の再生が、地域の再生につながる

2月25日(木)盛岡支部2月例会がカガヤ肴町ビルで行われました。宮崎同友会代表理事、宮崎食研(有) 代表取締役 田原敬介氏より「地域という旗印の集まる蜂の巣経営」〜中小企業は地域のインフラをテーマにリポートで報告をしていただきました。宮崎食研は食品の製造、商品開発などを行っています。

「みやぎきにひと手間を加えて皆様へ」をモットーに宮崎にある素材や人、地域にひと手間加えてお届けすることをお大事にしています。「おいしい商品をつくる」ためにはチャレンジしていかないと新しいものや味は出てきません。そこで取り組んでいるのが蜂の巣経営です。

1個1個は大きな物ではありませんが、組み合わせることとで1つの形にして蜂の巣を形成して行きます。当然売れ行きが良い商品やそうでない商品もあります。だからそこから次へ商品を開発し、常に新しいものを生み出して行く環境をつくっています。

宮崎同友会は2018年にVision30thをつくりました。これは中小企業の経営者が自立するまでにどういう道筋を辿っていくのかを書いているものです。田原氏は、地域がうまくいっていないということは中小企業もうまくいっていないことと同じこと。地域再生のためには地域のインフラとしての中小企業が再生することであり、地域の困っている

地域には多くの資源があります。「地域を活性化するためにも、この資源を活かしながら地域に若者が残るよう一人ひとりに向き合い、成長を促す仕組みをつくること。そして、地域の課題は自社と繋がることで解決できるようにしていきたいと思えます。」と田原氏から報告いただきました。



## 2021新春講演会

2021新春講演会が1月27日(水)カガヤ肴町ビル

4F会議室とZOOMオンラインと対面のハイブリットで開催されました。第1部は新春講演会、そして第2部は日本政策金融公庫から新型感染症に関する融資関連の案内と2部構成で開催されました。

第1部の新春講演会は秋田同友会常任理事、経営労働委員長(有)コーリヤマ代表取締役 藤河正弘氏より「難局を抜けどす鍵は社員と共に考え、検証し、さらに実践すること」経営指針の10年の実践で見えた下請け体質からの



脱却をテーマにご報告いただきました。

コーリヤマは1976年に藤河氏の父母が秋田県羽後町郡山に大手靴革メーカーの下請けとして設立しました。革靴のアップ加工(甲部の加工)が主で、2011年には

下請け体質からの脱却を目指し自社ブランドを立ち上げ、また2013年から革靴やレザーグッズの企画販売も行っています。平成20年に秋田同友会に入会して翌年経営指針を創る会に参加しました。そこで先輩経営者に「あなたに決定的に足りないものがある。それは親に対する感謝の心がない」という事を指摘されます。それまでは経営もよく知らないままに過ぎ完全

主性、自発性が発揮される職場づくり、共に育ちあう社風づくりを軸に難局を乗り越えていきたいと思えます。オンラインながら感動的なご報告に、新春にふさわしい講演会となりました。

### 共同求人委員会

共同求人委員会主催例会が2月4日(木)オンラインで開催されました。中同協共同求人委員長(株)EVENTS代表取締役 川中英章氏(広島同友会)より「成長をとまなう経営の実践」今こそ共同求人者のチャンスこのテーマでご報告いただきました。

### 選ばれる企業になるためのモデルに

共同求人活動には「労使見解」を実践的に学ぶためのものがすべて詰まっています。「人を生かす経営」という観点で経営者自身が何を学ぶか。凝縮された実践課題の見える化をしたものです。また、自社が外部からどういう風に見られているかは求人活動に参加するとリアルに感じ身に

染みてよくわかります。各企業はそのために就業規則は当然、ビジョン、魅力をそれぞれ1社、1社レベルを上げていくことが重要です。中小企業には若者は来ないという言葉聞きませんが、若者は企業規模よりも、やりがいがあり、将来に希望を持てる、そういう仕事であれば飛び込んできます。そのためにも自社が強靱な会社づくりをし、地域のモデル企業になっていくことです。そして採用はゴールではない。入社したら社員を育てていき「ここでこうして生きていけるのだ」という安心、言い換えれば「選ばれる企業」になることではないかと思えます。

### 同友会としてのプラットフォームに

最近ではコロナの影響だからとそのせいにしている傾向があります。採用できるから「採る」のではなくメンバーと共にスクラムを組んで取組み、同友会としてのプラットフォームになっていくことが大事だと思います。それが実現し解



社会から信頼される経営者自身の誇りや喜び、働く社員の生きがい、やりがい得られていくのではないかと思います。

報告後「若いひとたちを選ばれる企業にするには？」をテーマに活発にグループ討論がなされ、自社が共同求人と経営をどう結びつけていくか熱心に議論されました。

### 青年部会

1月22日(金)カガヤ肴町ビル4F会議室にてオンラインと対面参加のハイブリット例会を開催しました。パイセントトークと題し「事業の本質とは」というテーマで、(株)仙北造園 代表取締役 佐藤康之氏と住工房森の音(有)美建工業 代表取締役 桜田文昭氏の2

名から報告をいただきました。

「社長が全て決める」から「社員にまかせる」へ

お二方とも東京で建築や造園を学び、高い技術力と自信を持って岩手で事業を行っていきませんが、最初は思い描いていたとおりにはありませんでした。その中で、自社の価値を追求していくと両社とも「お客様と一緒に作り上げていく」ことが自社事業の在り方だと気が付きます。また、お客様から、小さな困りごとや将来像なども聞き、機能的かつ美しく長い間愛される「環境づくり」に重点を置き、さらに高い技術力と、お客様の生活をしっかりと描いて提案を行っていくことが目

ざす経営であると感じました。以前は二人とも社長が全てを決めていました。そこから社員に任せることで、社員一人ひとりとしっかりと向き合っている、その人が持つ価値観や考え方、今までの生き方などを話し、血の通った関わりで自社の特徴になっていきました。今回のパイセントークでは、何よりも驚いたのは行動の速さです。失敗を恐れずにチャレンジすること、誤解を恐れずより分け素早く動いていく姿勢の大切さに気づいたことが、大きな学びになりました。

青森県 美建工業  
代表取締役 櫻田 文昭氏  
株式会社 仙北通商  
代表取締役 佐藤 康之氏

～事業の本質とは～

岩手県中小企業家同友会 青年部 1月開催/  
**パイセントーク 2021**  
お客様自身から「ぜひ買わせてください」と言わせるプロのお二人による  
素直なトーク。「今これ欲しい!」は売らずに未来を売る...?  
本当に求められているものは何か。その答えとは...  
「企画」と「販売」、商品やサービスは遠くをカケテにし、社員と共に  
「幸せな未来」を生み出しているお二人から、パネルディスカッション形式で  
事業の本質についてお話しします。  
コーディネーターとして青年部副部長 原卓弘と前部長 川村武が  
盛り切り込みます!  
今回はリアル会場とWEB会場のハイブリッド開催です!乞うご期待!!

1/22(Fri) 18:00~21:00 会場: カガヤ青町ビル4F会議室 & ZOOM  
参加費: 無料 ※会員外500円 TEL: 019-626-4477

グループ討論では、各社のお客様の求めていることを深掘りしていき、今から自分ができる行動なども積極的

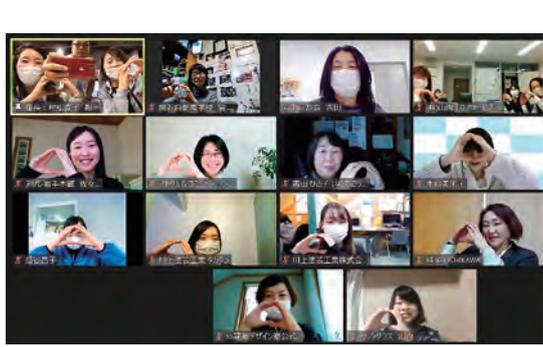
に議論  
お客様の求めていることを深掘りしていき、今から自分ができる行動なども積極的に議論  
報告者の川上塗装工業(株)専務取締役 川上冨華氏より「自社のビジョンとSDGsが一体化した瞬間」心動き、人が動くをテーマに、座長の信幸プロテック(株)専務取締役 村松直子氏の進行



### 女性部会

2月10日(水)、他県やゲスト参加を含め20名が参加しオンラインで2月女性部ツキイチ144大学が行われました。

で報告いただきました。2005年2月に創業した川上塗装工業は、今年で17年目を迎えます。この間、経営理念を掲げながらどう実現したらいのかを考え続けながらやってきました。しかし、2年前に、専務の右腕と左腕だった2名のパート社員の退職、時期を同じくして「辿り着きたい未来に辿り着く手段が見えない」状況に陥った社長。「もう会社を辞めたい」という気持ちになりました。この状況を変えるきっかけになったのが「ガイナ」という特殊塗料との出会いでした。「ガイナ」は塗ることで遮熱、断熱の効果があり省エネにも繋がり、快適な空間を作ることが出来ます。環境にも優しく、社会も良くなる。これで社会性の理念につながるピースが見つかりました。そして新たな事業として、自社の2階を改装し「サステイナブルスタジオソノツツキ」とし、色々な方が集い発信して行く場を考えていきました。しかしテーマの軸がま



だ見つかりませんでした。そんな中、同友会のSDGsの勉強会に参加しました。回を重ね参加することで「自分たちの日々の暮らしの中で何が出来るのか」から「ここがSDGsを広めて行く場所になればいいのでは」と視点が変わり、テーマを「SDGsを知ってもらう場所」として運営して行くことになりました。壁にぶつかりながらも展望が描け、理念の実現に向け動き出している川上氏の報告でした。今回はオンラインで、社員の方に社内を丁寧に紹介していただく時間もありませんでした。

# ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール  
1972年長崎県生まれ  
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業  
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

## 靴職人

10年履いていて、足にぴったり馴染んだお気に入りの山のソールが、両方ともベロっと剥がれました。2、3

回、ゴム用接着剤で、ベタベタくっつけてみましたが、すぐにまた剥がれました。YouTubeを見て、シリコン接着も試してみましたが、効果はありませんでした。最後に梱包用のホッチキスで、バチバチ留めてもみましたが、30分も歩いたら、ブチブチ外れました。これはダメだと思ひ、地元

たいです。

職人のおじさんは、奥さんと2人で、靴の修理だけやっています。おじさんは、靴を見るなり、「同じ症状の山靴、今週あなたで4人目だよ。みんなコロナで、冬山をたくさん歩いていてみたいだよ」と、笑って、修理を受けてくれました。しかも、「ウレタンの内ソールと外のビブラムソール、2つとも交換しないとダメだね。60ユーロ(8000円)だけどいいかな。1週間後にできてよ」と、リーズナブルで、仕事も早い！メーカーとかに送ったら、倍くらいのお金が取られ、1月くらい待たされるようです。1週間後に取りにいったら、職人のおじさんは、「今週も同じ症状のお客さんの靴が3つもあるよ」と、苦笑いしていました。

の工房)に持っていきましました。ソールと靴本体の間のウレタン素材のクッション(内ソール)が、経年劣化してポロポロになり、そうなる

普通の人間は、人生の25%

50%の時間を、靴を履いて過ごしているようです。一生で、平均、地球3周も歩くようです。靴は、人間の大切な伴侶です。昔は、足形に合わせて作った職人の手作りの靴でしたが、現代は、工業製品。シューマッハーも大分少なくなりました。です。過去半世紀で、靴職人の数はかなり減少し、絶滅の危機に瀕している、といわれています。



手工業的に靴作りや修理をやっている工房は、現在ドイツに2300軒くらいあるようです。6000人くらいの職人さんが働いています。毎日使う大切なものなのに、人口8300万人に対して、少なすぎます。絶滅から救いたい、大切にしたい職種です。いつかは、自分のオリジナルの靴を注文したいと思っています。ハイキング用の靴は、注文してから半年待ち、価格は10万円くらいするらしいですが、修理したお気に入りの山靴は、さらに10年履けそうです。

他方、さまざまな分野で、職人のルネッサンスも起こっています。電気技師、暖房技師、皮職人、精肉職人、パン職人、散髪職人、家具内装職人、大工職人、石工職人、宝石職人……と身近な職人は、生活を豊かに便利にし、安心感をもたらし、地域の経済も支えます。現代人はヒューマニティーに飢えています。それも体現する職人の文化が見直されています。職人の価値が、日本でも上がっていくことを期待しています。私はSDGsの要めだと思っています。



# わが社の新商品

ロツツ(株) (代表取締役 富山泰庸氏) は陸前高田市にオープンした「CAMOCY」内に新しくチョコレートの店「CACAOPROOM」をオープンしました。チョコレートはフェアトレードを通じて、オーガニックのカカオ豆とオーガニックの黒糖のみを使用して薬剤師が栄養を考えて作るチョコレート。チョコ本来の味が濃厚に出ていて、発酵食カカオの風味と黒糖のコクが絶妙にマッチングした逸品ぞろい。オーガニックピスタチオが入った「ピスタチオチョコレート」(1500円) が一番人気商品です！

またこのチョコレートは生活習慣に効果的な栄養素であるカカオポリフェノールや血管のストレッチ効果のあるテオブロミンが豊富に含まれており、「美味しく食べる現代の薬」として、人気急上昇中です！



お問い合わせは (080-1693-3148)。  
EC サイトは <https://cacaobroma.shop/>

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。  
■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。  
■本紙掲載事業への出入返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

**TUENO**

包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は、「適材適包」でお客様をサポート致します。

**「PACKAG ENGINEERING」**

詳しくはホームページで <https://www.touhokuueno.co.jp/>

**株式会社東北ウエノ**

〒021-0893 本社：一関市地主町3-35 TEL:0191-21-4531  
テクノカルセンター：一関市地主町7-15 TEL:0191-32-5020

[輸送包装便覧.com](https://www.transport-package.com/) <https://www.transport-package.com/>

人と自然にやさしい環境を創り  
地域型企业として貢献します。

水まわりのリフォーム  
キッチンバス・トイレ  
洗面

住宅設備の  
アフターサービス  
エコキュート  
ボイラー  
エアコン

浄化槽  
安心安全！  
調査・施工  
メンテナンス  
修理

北上営業所  
盛岡市

**岩手日化サービス株式会社**  
盛岡市黒川2 2地割5 6番地  
電話 019-696-5611

物を大切にし環境にやさしくしたい 使わない人から使いたい人へ  
総合リユースショップ **Doki-Doki 2nd STREET**

**(株)トータル・リユース**

代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**  
ise yukiro

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33  
TEL: 0193-21-2126 FAX: 0193-21-2127  
携帯 090-8780-3296  
E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

**Southern Iwate DSG** サザン岩手ドライビングスクールグループ  
Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター  
RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール  
HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら  
<http://www.si-dsg.com/>  
/mobile

**オリジナルラベル  
ワインを作成します**

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

SHIWA 紫波  
自園自醸ワイン 紫波  
岩手県紫波町産ぶどう100%

社名ロゴ写真OK 包装、のし無料 12本以上 作成料無料

お申し込み・お問い合わせ  
**Tel. 019-676-5301**

自園自醸ワイン紫波 (株)紫波フルーツパーク  
〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで  
真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検 植物 光合成 CO2 エネルギー 燃焼 食用油 燃料化 資源物

BDFの製造・販売 BDF燃料

**紫波環境株式会社**

岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1  
TEL: 019-672-2656 FAX: 019-601-2686  
<http://shiwakankyo.com/>

し原・浄化槽汚泥収集運搬

節電は経費削減につながります！

オフィスの照明を見直し、経費削減を実現しませんか？  
お客様のニーズに合わせたLEDソリューションをご提案します。

長寿命 消費電力カット CO2削減 発熱が少ない

現場調査から取付工事まで、すべて平金商店へお任せ下さい！  
LEDに入れ替えた場合のコストシミュレーションも可能です。  
ぜひお気軽にご相談ください。

**株式会社 平金商店** TEL: 019-624-2121

安心して暮らせる地域づくり  
共に繁栄する仲間づくり  
社員の生きがいづくり

各種配電盤、制御盤、計装盤の開発、設計、製作、施工  
特殊肥料、いちご閉鎖型高設栽培システムの製造・販売

**東日本機電開発株式会社**  
〒020-0401 盛岡市手代森5-19-10  
TEL: 019-675-2277 FAX: 019-675-2288

**DOYU**  
I W A T E  
2021年4月1日発行  
Vol. 148

発行/岩手県中小企業家同友会  
広報委員会

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-15 カガヤ着町ビル3F  
TEL: 019-626-4477 FAX: 019-626-1644  
Mail: info@wate.doyu.jp